

教科（科目）	国語（現代文B）	単位数	2単位	学 年	2年
教科書	『精選現代文B』（三省堂）	副教材等	『マナトレ国語 標準編』 （ベネッセコーポレーション）		

## 1 学習目標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

## 2 指導の重点

- ・文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえ、その論理性を評価する。
- ・文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わう。
- ・文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりする。
- ・語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自分の表現や推敲に役立てる。

## 3 評価の観点と評価規準及び評価方法

観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
評価規準	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。
評価方法	発言・質問 授業態度 提出物 小テスト 定期考査	音読 授業態度 提出物 小テスト	論述 提出物 小テスト 定期考査	朗読 提出物 小テスト 定期考査	発言・質問 提出物 小テスト 定期考査

## 4 定期考査・課題・提出物

定期考査は5回実施する。授業ではノート作成や課題プリントに取り組み、随時提出する。漢字の読み書き、語句や慣用句に関する小テストも随時行う。提出物や小テストは、評価の重要な材料とする。

## 5 担当者からの一言

様々な文章を読むことや自らの考えを表現することによって、自分の世界を深め広げていきましょう。同時に多くの語彙に触れて、社会に出る上で必要な知識や表現力を身につけてください。

6 年間プログラム

学期	学習内容	学習のねらい（何を学ぶか）	学習活動（評価材料）
前半 1 2 時間 想定	随想 最初のペンギン（茂木健一郎）	<ul style="list-style-type: none"> <li>随想的文章を読み味わう。</li> <li>「勇気や決断」について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字や語句の意味を確認する。</li> <li>筆者が象徴的に表現するものについて考察する。</li> </ul>
	評論 ミロのヴィーナス（清岡卓行）	<ul style="list-style-type: none"> <li>論理の展開をおさえる。</li> <li>ヴィーナスの美がどのような美であるか理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>段落に沿って内容を理解する。</li> <li>ヴィーナスの美と両腕の欠落との関係を理解する。</li> </ul>
	中 間 考 査		
	小説 山月記（中島敦）	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢文調の文体や寓意的な表現を読み取る。</li> <li>登場人物の心情変化を的確に把握する。</li> <li>物語の主題について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字や語句の意味を確認する。</li> <li>音読する。</li> <li>物語の流れを理解する。</li> <li>主人公の生き方に対する自分の考えを明確にする。</li> </ul>
期 末 考 査			
後半 1 2 時間 想定	小説 ランドセル（角田光代）	<ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物の心情変化を的確に把握する。</li> <li>物語の意味について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字や語句の意味を確認する。</li> <li>物語の流れを理解する。</li> <li>物語の象徴性について考える。</li> </ul>
	評論 未来世代への責任（岩井克人）	<ul style="list-style-type: none"> <li>筆者の主張を的確に読み取る。</li> <li>経済学者の論理と「倫理」との関係を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>段落に沿って内容を理解する。</li> <li>本文の要旨をおさえ、筆者の主張に対する自分の意見を書く。</li> </ul>
	中 間 考 査		
	小説 ころも（夏目漱石）	<ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物の心情変化を的確に把握する。</li> <li>時代背景をふまえつつ、登場人物の心情や筆者の思いについて考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字や語句の意味を確認する。</li> <li>物語の流れを理解する。</li> <li>登場人物の関係を整理する。</li> <li>登場人物の生き方に対する自分の考えを明確にする。</li> </ul>
期 末 考 査			
1 6 時間 想定	評論 メディアと歴史（若林幹夫）	<ul style="list-style-type: none"> <li>構成や論理の展開をおさえる。</li> <li>語句や表現に注意しながら文脈を押さえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「道具」と「メディア」の変遷について理解する。</li> <li>「現代社会」の特徴を理解し、道具の他者性を理解する。</li> </ul>
	評論 木の葉と光（日高敏隆）	<ul style="list-style-type: none"> <li>筆者の主張を的確に読み取る。</li> <li>構成や論理の展開をおさえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本文の要旨をおさえ、筆者の主張に対する自分の意見を書く。</li> </ul>
	学 年 末 考 査		

\*各学期とも、適宜『マナトレ 国語 標準編』を用いて国語常識の演習と確認を行う。

平成29年度シラバス（古典A）

学番20 新潟県立村松高等学校

教科（科目）	国語（古典A）	単位数	2単位	学年	2年
教科書	『高等学校標準古典A 物語選』 （第一学習社）	副教材等	『八訂版 読解をたいせつにする 体系古典文法』 （数研出版）		

1 学習目標

古典としての古文と漢文、古典に関連する文章を読むことによって、我が国の伝統と文化に対する理解を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。

2 指導の重点

- ・古典などに表れた思想や感情を読み取り、人間、社会、自然などについて考察する。
- ・古典特有の表現を味わったり、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解したりする。
- ・古典などを読んで、言語文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解する。

3 評価の観点と評価規準及び評価方法

観点	関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
評価規準	古典を読む楽しさを味わい、古典に親しむとともに、我が国の伝統と文化に対する関心を深めようとしている。	まとまりのある古典を読み、古典に表れた思想や感情を捉え、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴などの理解を深め、知識を身に付けている。
評価方法	発言・質問 授業態度（ノート作成） 提出物 小テスト 定期考査	音読 提出物 小テスト 定期考査	発言・質問 提出物 小テスト 定期考査

4 定期考査・課題・提出物

定期考査は5回実施する。授業ではノート作成や課題プリントに取り組み、随時提出する。歴史的かなづかいや漢字の読み、語句の意味、訓読に関する小テストもその都度行う。発言等の授業態度、提出物、小テストを、評価の重要な材料とする。

5 担当者からの一言

古文も漢文も、音読がすべての基本です。それをふまえて、内容を理解するために、自ら辞書を引いて語句の意味を理解し、古典文法や漢文の句法を繰り返し学習してください。様々な感覚を使いながら古典作品の読み方・楽しみ方を身につけていきましょう。

6 年間プログラム

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動（評価方法）	
前半 1 2 時間 想定	ゆく川の流れ (方丈記)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対句的表現を把握する。</li> <li>・作者の無常観について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を音読する。</li> <li>・重要単語の意味を調べる。</li> <li>・正確に口語訳し、内容を理解する。</li> </ul>	
	画竜点睛 (歴代名画記) 推敲 (唐詩紀事)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訓読について確認する。</li> <li>・使役の句形を理解する。</li> <li>・故事成語の意味を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を音読し、書き下す。</li> <li>・正確に口語訳し、故事成語の由来と現在の意味を理解する。</li> </ul>	
	中間 考 査			
	弓争ひ (大鏡)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敬語を理解する。</li> <li>・藤原氏や摂関政治のあり方と、登場人物の心の動きについて理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を音読する。</li> <li>・重要単語の意味を調べる。</li> <li>・二方向に対する敬語表現や最高敬語に留意して、正確に口語訳する。</li> </ul>	
	後半 1 2 時間 想定	水魚之交 (十八史略)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・反語の句形を理解する。</li> <li>・歴史的背景をふまえ、物語の展開と登場人物の関係性を読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を音読し、書き下す。</li> <li>・正確に口語訳し、故事成語の由来と現在の意味を理解する。</li> </ul>
期 末 考 査				
前半 1 5 時間 想定	光る君誕生 (源氏物語)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長編物語の概要を理解する。</li> <li>・登場人物の関係性をふまえ、物語の展開を読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を音読する。</li> <li>・重要単語の意味を調べる。</li> <li>・主語を明らかにして口語訳し、物語の展開を的確に理解する。</li> </ul>	
	2	絶句 (杜甫) 峨眉山月歌 (李白) 臨洞庭 (孟浩然)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢詩のきまりを確認する。</li> <li>・詩の構成や展開をふまえ、作者の心の動きや詩の主題を読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を音読し、書き下す。</li> <li>・口語訳し、詩の展開に沿って内容をまとめる。</li> </ul>
	中間 考 査			
	期	泔坏の水 (蜻蛉日記)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和歌の修辞を理解する。</li> <li>・登場人物の関係性をふまえ、主人公の心の動きを読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を音読する。</li> <li>・重要単語の意味を調べる。</li> <li>・和歌も含め正確に口語訳する。</li> </ul>
	後半 1 5 時間 想定	鴻門之会 (史記)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮定・抑揚の句形を理解する。</li> <li>・歴史的背景をふまえ、物語の展開と登場人物の関係性を読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を音読し、書き下す。</li> <li>・正確に口語訳し、物語の展開に沿って場面ごとの内容をまとめる。</li> </ul>
期 末 考 査				
1 6 時間 想定	門出 (更級日記)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あづま路」の位置を理解する。</li> <li>・当時の文化的状況と、主人公の心情を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を音読する。</li> <li>・重要単語の意味を調べる。</li> <li>・正確に口語訳し、内容を理解する。</li> </ul>	
	3	民父母 (孟子) 百谷王 (老子) 鷓得腐鼠 (莊子) 刻削之道 (韓非子)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比較の句形を理解する。</li> <li>・儒家・道家・法家の思想について、その相違や関係性を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を音読し、書き下す。</li> <li>・正確に口語訳し、論理の展開と主張をまとめる。</li> </ul>
	学 期	学 年 末 考 査		

教科（科目）	地理歴史（日本史B）	単位数	4単位	学年	2年
教科書	『新日本史 B』（山川出版社）		副教材等	『最新日本史図表』（第一学習社）	

## 1 学習目標

我が国の歴史展開を、世界史的視野に立って総合的に考察させ、我が国の文化と伝統の特色について認識を深めさせることによって、歴史的思考力を養い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。

## 2 指導の重点

古代国家の形成から幕藩体制の動揺までの歴史について学習し、現代日本社会の基礎形成について理解する。  
地域社会の身近な文化財を教材として利用し、日本社会との関連を理解する。  
近代日本の形成における世界との関わりを学習し、今日及び今後の日本社会のあり方について主体的に考えようとする視点を養う。

## 3 評価の観点と評価規準及び評価方法

観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価規準	我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求し、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する一員としての責任を果たそうとしている。	我が国の歴史の発展から課題を見だし、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて総合的に理解し、その知識を身につけている。
評価方法	定期テスト 提出物 ノート 発言・取り組みの姿勢	定期テスト 提出物 ノート 発言・取り組みの姿勢	定期テスト 提出物 ノート 発言・取り組みの姿勢	定期テスト 提出物 ノート 発言・取り組みの姿勢

## 4 定期考査・課題・提出物

1学期中間・期末、2学期中間・期末、3学期学年末の5回定期テストを実施します。  
単元ごと、定期テスト前後に課題などの提出物を課します。

## 5 担当者からの一言

- 日本史は、過去の出来事の羅列にすぎないと思われるかも知れません。しかし、その内容は、他の教科の学習内容と関連し、日本で現在起きている様々な出来事に結びついています。日本史の授業を通して、新聞やニュースへの理解が進み、社会に対する興味や関心が高まり、一層、視野を広げられるように支援していきたいと思います。
- 私たちの祖父や祖母、父や母の身近な家族が生きてきた時代と地域の歴史を学ぶことで、家族やふるさとの理解や愛着を深めていきたいと思います。
- 身近な文化財を知ることにより、自分が生活する地域の成り立ちについて理解を深めて行きます。

6 年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
(46) 時間 想定	1章 日本文化のあけぼの 1 日本文化のはじまり 2 農耕社会の形成 3古墳とヤマト政権 2章 古代国家の形成 1ヤマト政権の支配機構 2 推古朝と飛鳥文化 3律令国家への道 4律令国家の構造 3章 古代国家の展開 1 天平時代 2 天平文化 3 律令国家の転換 4章 宮廷貴族社会の成立 1 摂関政治 2 国司の支配と社会の変化 3 国風文化 5章 武家政権成立 1 院政の成立 2 中世社会への胎動 3 鎌倉幕府の成立 4 執権政治 5 鎌倉時代の社会と文化 6 蒙古襲来と幕府の衰退	自然環境や大陸からの文化の影響による生活の変化に着目して、旧石器文化、縄文文化及び弥生文化の時代の社会について学ぶ。 我が国における国家の形成と律令体制の確立の過程、隋・唐など東アジア世界との交流に着目して、古代国家の展開と古墳文化、天平文化などの文化の特色について学ぶ。律令に基づく古代国家の成立と推移及び文化の形成について、東アジア世界の動きとも関連付けて学ぶ。我が国における国家の形成と律令体制の確立の過程、隋・唐など東アジア世界との交流に着目して、古代国家の展開と天平文化などの文化の特色について学ぶ。 東アジア世界との関係の変化、荘園・公領の動きや武士の台頭など地方の動向に着目して、古代国家の推移と国風文化の展開及び中世社会の萌芽について学ぶ。	定期考査2回 授業への取り組み方や意欲 課題の提出状況 ノートの取り方
(58) 時間 想定	6章 中世社会の展開 1 室町幕府の成立と南北朝の内乱 2 室町幕府の支配と守護 3 東アジア世界との交流 4 民衆の台頭と室町文化 5 戦国動乱と諸地域 7章 幕藩体制の確立 1 織豊政権 2 江戸時代の政治の仕組み 3 江戸時代の社会の仕組み 4 江戸時代初期の対外関係 8章 幕藩体制の展開 1 幕政の展開 2 江戸時代の経済仕組みと発展 3 元禄文化 4 幕政の展開	戦国大名の時代に至る武家社会の進展と文化の展開について学ぶ。 武士の土地支配と公武関係、宋・元とのかわりに着目して、武家政権の形成過程と鎌倉文化に見られる新しい気運について学ぶ。 日本の諸地域の動向、日明貿易など東アジア世界の交流、庶民の台頭に着目し、産業経済の発展や下剋上など中世社会の多様な展開、武家と公家文化のかわりや庶民文化の萌芽などについて学ぶ。 織豊政権及び幕藩体制の特色と推移、社会・文化の動向について学ぶ。ヨーロッパ世界との接触とその影響、鎖国などその後の対外関係、支配体制と身分制度や儒学の役割、文化の特色に着目して、織豊政権、幕藩体制の特質について学ぶ。	定期考査2回 授業への取り組み方や意欲 課題の提出状況 ノートの取り方
(31) 時間 想定	9章 幕藩体制の動揺 1 社会変容と対外危機 2 化政文化 3 内憂外患と改革 10章 近代国家の成立 1 開国と幕末の動乱 2 明治維新と文明開化 11章 立憲国家の成立と日清・日露戦争 1 自由民権運動と大日本憲法 2 初期議会と条約改正 3 列強の中国分割の始まりと日露戦争 4 日露戦争後の政治と社会 5 近代産業の定着 6 近代文化 12章 大正デモクラシーと政党政治 1 第一次世界大戦と大陸進出 2 大正デモクラシーとワシントン体制 3 政党政治の展開 4 市民文化の時代 13章 第二次世界大戦と日本 1 中国問題と軍部の政治的台頭 2 日中全面戦争と第二次世界大戦 3 太平洋戦争 14章 占領と国際復帰 1戦後改革 2 冷戦とサンフランシスコ講和会議 15章 55年体制と高度経済成長 1 55年体制の成立 2高度経済成長と保守政権の定着 3 経済大国日本 16章 冷戦の終了と55年体制の崩壊 1 新しい秩序形成の模索 2 現代文化と日本の進路	幕藩体制の下での経済機構や交通・技術の発展、都市の繁栄に着目して、農業や商工業の発展及び町人文化の形成、農山漁村の生活文化について学ぶ。 欧米諸国のアジアへの進出、学問・思想及び産業の新たな展開に着目して、幕藩体制の動揺と近代化の基盤の形成について学ぶ。 開国、幕府の滅亡と新政府の成立からの明治時代の近代日本の歩みについて、アジアにおける国際環境と関連付けを学ぶ日清・日露の2つの戦争に勝利し、第一次世界大戦で日本の国力はさらに増したが、世界恐慌を境に、日中戦争・第二次世界大戦と突き進み敗北した。戦争の歴史と戦後の立ち直りと高度成長、その後の日本社会の変化と今日の諸問題について学ぶ。	定期考査1回 授業への取り組み方や意欲 課題の提出状況 ノートの取り方

教科 (科目)	地理歴史 (地理 B)	単位数	4 単位	学 年	2 年 (選択クラス)
教科書	『地理 B』(東京書籍) 『現代地図帳』(二宮書店)	副教材等	『新詳地理資料 COMPLETE2017』 (帝国書院)		

## 1 学習目標

現代世界の地理的認識を学ぶとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に生きる人間としての自覚と資質を養う。

## 2 指導の重点

- ・現代世界を地理的項目から考える。具体的には地形や気候などの自然環境、農林水産業や工業、エネルギーなどの産業と資源などから人間生活とのかかわりを考える。
- ・現代世界を地域から考える。具体的にはオーストラリア、インド、日本などの国家規模での地誌や、ヨーロッパ、北アメリカ、東南アジアなどの州や大陸規模での地誌から地域的特性を考える。

## 3 評価の観点と評価規準及び評価方法

観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価規準	現代世界の地理的事象や世界の地域に関心を持ち、意欲的に追求する態度を持っている。	現代世界の地理的事象がどのように人間生活と関わっているかや、世界の地域にはどのような特性があるかを考察する力を身につけている。	諸資料を選択して活用することを通して地理的事象や地域の特性を追求する方法を身につけ、それらの過程や結果を確実に表現している。	現代世界の地理的項目や世界の地域について追求方法を理解し、基本的な知識を身につけている。
評価方法	定期テスト 提出物 取り組み方 発言	定期テスト 提出物 取り組み方 発言	提出物 取り組み方	定期テスト 提出物 取り組み方 発言

## 4 定期考査・課題・提出物

- ・年間 5 回の定期考査を実施する。
- ・授業プリント等は定期考査終了後に提出を求める。
- ・課題を出す (不定期)。

## 5 担当者からの一言

地理は多方面の知識が要求される科目であり、一般教養的な要素の強い科目でもある。まず、興味と関心を持つことが大切であり、それによってより多くの知識を理解し、身につけることができる。

6 年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい (何を学ぶか)	評価方法
(46) 時間 想定  1  学  期	第1編 さまざまな地図と地理的 技能 第1章 地理情報と地図 1 地球儀 2 世界地図 3 地理情報を地図化 第2章 地図の活用と地域調査 1 地域調査の実施にあたって 2 学校周辺における地域調査 第2編 現代世界の系統地理的考 察 第1章 自然環境 1 世界の地形 2 世界の気候 3 世界の環境問題 第2章 資源、産業 1 産業の発展と産業地域の変容 2 エネルギーと鉱産資源産業の 立地と変容 3 農業の立地と農業地域の変容 4 工業の立地と工業地域の変容 5 流通・サービス産業 6 消費行動と消費関連産業	地球儀や様々な地図を、それぞれの特徴や 有用性を踏まえて活用し、現代世界の地理的 事象をとらえるための地理的技能を身につけ る。 文献や統計などを活用し、現地に直接出向 いて現地調査を行い、具体的に地域理解を深 める。 大地形の類型・分布の類似性・規則性を理 解する。また、小地形と土地利用の関連性を 理解し、人間生活とのかかわりを考察する。 世界の気候分布を理解する。また、各気候 区の特徴を理解し、人間生活とのかかわりを 考察する。 産業全体の変容と産業地域の変容について 概観する。エネルギー・資源産業・農業・工 業・流通・サービス業・消費関連産業での立 地条件や地域の特徴を世界的視野から考察す る。	・定期テスト2回 ・提出物 ・授業への取り組 み
(58) 時間 想定  2  学  期	7 資源・エネルギー問題 8 食料問題 第3章 人口、都市・村落 1 人口 2 都市・村落 3 人口問題 4 住居・都市問題 第4章 生活文化、民族・宗教 1 生活文化 2 民族・言語・宗教 3 民族問題・言語問題 4 領土問題 第3編 現代世界の地誌的考察 第1章 現代世界の地域区分 1 地域区分の方法と意義 2 地誌的な考察方法 題2章 現代世界の諸地域 1 中国 2 日本と韓国	資源・エネルギー問題・食料問題について 概観する。 人口問題・住居・都市問題の現状について 概観し、どのような課題が見られるか先進国 と発展途上国とに分けてとらえる。 食事・住居・言語・宗教などの文化につい て世界的視野から考察する。 民族・領土問題の現状と発生要因を世界的 視野からとらえる。 現代世界を地域区分し、場所ごとの違いを まとめ、地域性を明らかにし、全体像を理解 する。 世界の諸地域を歴史的背景を踏まえながら 多角的に考察し、地誌的な考察方法を身に付 ける。	・定期テスト2回 ・提出物 ・授業への取り組 み
(31) 時間 想定  3  学  期	3 東南アジア 4 インド 5 西アジア・北アフリカ 6 サハラ以南アフリカ 7 ヨーロッパ 8 ロシアとその周辺諸国 9 北アメリカ 10 中央・南アメリカ 11 オーストラリアとカナダ 第3章 現代世界と日本 1 地理的諸課題と調査方法 2 日本が抱える地理的な諸課題 と将来を考える	世界の諸地域を歴史的背景を踏まえながら 多角的に考察し、地域的特色や地球的課題の 理解を深めながら、地誌的な考察方法を身に つける。 地球規模の視点から日本の国土を多角的に 考察し、将来の国土のあり方を展望する。	・定期テスト1回 ・提出物 ・授業への取り組 み

計 135 時間 (52 分授業)

教科名	科目名	学科・学年	単位数
数学	数学Ⅱ	普通科・第2学年	3単位
教科書 副教材	『新編 数学Ⅱ』（東京書籍） 『ニューサポート 数学Ⅱ』（東京書籍）		

## 1 学習目標

- ・ 数学的活動を通して、数学的な見方や考え方を身に付け、それらを積極的に活用しようとする態度を育てる。
- ・ 基礎的な数学的事項を考察し、表現・処理する仕方や推論方法を身に付け、よりよく問題解決する方法を理解する。

## 2 指導の重点

- ・ 解答の書き方（表現の仕方）の指導も行い、説明する力をつける。
- ・ 視覚的な要素を取り入れながら、どのように問題を解いていくのかが少しでも見える形で指導する。また、数学と社会との関わりについても必要に応じて話をする。

## 3 評価の観点と評価規準及び評価方法

観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多面的にものを見たり、理論性のあるいろいろな考えに触れたり、試行錯誤しながら考え、主体的に数学的な見方や考え方のよさを学ぼうとする。</li> <li>・ 身近な事象を数学化し、積極的に数学を活用しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数学的な見方や考え方のよさを認識できる。</li> <li>・ 自らの思考過程を振り返りながらより発展的に考え一般化して問題の本質を探ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数学的な見方や考え方を生かし自分から工夫して問題を解決したり判断することができる。</li> <li>・ 設定した数学的な課題を既習事項や公理・定義等を基にして分析・整理し、数学的に考察したことを明確に表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数理的に考察し処理することのよさや既習事項などを体系的に整理し活用できる。</li> <li>・ 構成した数学的知識の意味を考えたり、見いだした数学的知識をいろいろな場面に活用できる。</li> <li>・ 文化や社会生活において数学が果たしている役割などを理解している。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 取り組み姿勢</li> <li>・ 提出物</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 取り組み姿勢</li> <li>・ 課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ノート（机間巡視）</li> <li>・ 課題</li> <li>・ 定期テスト</li> <li>・ 課題テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ノート（机間巡視）</li> <li>・ 課題</li> <li>・ 定期テスト</li> <li>・ 課題テスト</li> </ul>

## 4 定期考査・課題・提出物

- ・ 年間6回100点満点で実施。授業内容と課題内容から主に出題する。課題は、各学期2回ずつあり。
- ・ 長期休業中には、それまでの内容から復習・発展のための課題あり。休業あけに提出、課題テストあり。

## 5 担当者からの一言

数学のおもしろさや、奥深さをわかりやすく伝えたい。  
お互いに楽しい授業になるよう発言・質問を積極的にしてもらいたい。

## 6 年間プログラム

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動 【評価方法】
1 学 期  想定 時数 (36)	3章 三角関数 1節 三角関数  2節 加法定理  1章 方程式・式と証明 1節 整式・分数式の計算  2節 2次方程式	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般角の意味を理解し、図示できる。</li> <li>弧度法の意味を理解し、角度を弧度に直すことができる。</li> <li>三角関数やその性質について理解し、グラフを書くことができる。</li> <li>三角関数の加法定理を理解し、扱うことができる。</li> <li>3次式の計算、二項定理について、理解を深める。</li> <li>整式の除法ができ、商と余りを求めることができる。</li> <li>通分のやり方を理解し、分数式の和と差を求めることができる。</li> <li>因数分解を用いて、分数式の積と商を求めることができる。</li> <li>複素数の意味を理解し、四則演算ができる。</li> <li>複素数の範囲で2次方程式の解法ができる。</li> <li>解と係数の関係を2次方程式に応用できる。</li> </ul>	発言（質問） 授業の取り組み姿勢 確認テスト
2 学 期  想定 時数 (45)	3節 高次方程式  4節 式と証明  2章 図形と方程式 1節 点と直線	<ul style="list-style-type: none"> <li>剰余の定理を用いて、余りを求めることができる。</li> <li>因数定理を用いて、整式の因数分解ができる。</li> <li>恒等式の性質を理解する。</li> <li>等式、不等式の証明が書けるようになる。</li> <li>直線上、平面上の点において、2点間の距離や内分点、外分点の座標を求めることができる。</li> <li>公式を用いて、直線の方程式を求めることができる。</li> <li>2直線の交点、平行、垂直について理解し、条件を満たす直線の方程式を求めることができる。</li> </ul>	発言（質問） 授業の取り組み姿勢 確認テスト
3 学 期  想定 時数 (24)	2節 円	<ul style="list-style-type: none"> <li>円の方程式と円の基本性質との関係を理解する。</li> <li>円と直線との関係を把握し、判別式の役割について理解する。</li> <li>円の接線の方程式を求めることができる。</li> </ul>	発言（質問） 授業の取り組み姿勢 確認テスト

教科(科目)	理科(化学基礎)	単位数	2単位	学年	2学年(3クラス)
教科書	改訂『新編 化学基礎』(東京書籍)	副教材	『高校化学基礎カラーノート』(実教出版) 自作の教科書に沿った内容のプリント		

### 1 学習目標

化学的な事物・現象についての観察、実験や課題研究などを行い、自然に対する探求心を高め、化学的に探求する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。

### 2 指導の重点

化学反応における量的な関係について簡単な比例関係から求めることができるようにする。  
身の回りでおこる様々な化学変化と学習内容を結びつけられるようにする。

### 3 評価の観点と評価規準及び評価方法

観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
評価規準	自然に対する探求心が育っている。	化学の基本的概念や原理・法則を理解している。	主体的に観察・実験を行っている。	授業を通して科学的な自然観が育っている。
評価方法	学習状況の観察 実験レポート	プリントの回答実績 実験レポート 定期考査の実績	学習状況の観察 実験レポート	定期考査の実績 プリントの回答実績

### 4 定期考査・課題・提出物

上記の評価の観点に沿った内容の問題を授業担当者が作成し、年間5回定期考査を実施する。  
小单元ごとにまとめプリントや練習問題を提出。実験実施ごとにレポートを提出。  
授業のノートの提出または授業中に点検。

### 5 担当者からの一言

化学の学習を助けるため、化学準備室廊下にいろいろな掲示物を貼り出しています。ぜひ見てください。また、授業はできるだけ日常生活にみられる事柄を例に示しながら展開します。化学が生活をどのように下支えしているかがわかれば、化学を身近に感じることができると思います。

### 6 年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
(23) 時間想定	序編 化学と人間生活 ・物質について学ぶ「化学」 ・文明は金属とともに ・セラミックス、プラスチック、繊維 ・プラスチックのリサイクルと環境について ・食料の確保、食品の保存、洗剤 ・地球環境と物質の利用	・物質について学ぶ学問としての化学 ・製錬；金属を利用するための技術 ・高度に精製した原料から得られるセラミックス、化学繊維など ・マテリアルおよびケミカルリサイクル、生分解性プラスチック ・天然資源、化学肥料、生物の体内で分解される農薬など ・塩漬け、干物、発酵、防腐剤、着色料、セッケンと合成洗剤など ・微生物による分解、人体への取り込み、環境リスクなど	中間テスト 提出物、 実験レポート 学習状況の観察
1 学期	1編 物質の構成 1章 物質の成分と構成元素 ・物質の成分 ・物質の構成元素 ・物質の三態 2章 原子の構造と元素の周期表 ・原子の構造	・純物質・混合物の性質(融点、沸点、密度)、分離と精製法 ・成分としての元素、元素記号、元素の周期表 ・単体と化合物、同素体、単体と元素、 ・物質の三態と状態変化、熱運動、物理変化と化学変化など ・原子の構造、原子番号、質量数、同位体など	

	<p>〔観察実験 8〕「放射性同位体の利用について」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電子配置と周期表</li> </ul> <p>〔観察実験 9〕「アルカリ金属の性質」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>〔観察実験 8〕を通じた放射性同位体の利用の理解</li> <li>電子配置, 最外殻電子, 元素の周期律と周期表など</li> <li>〔観察実験 9〕を通じたアルカリ金属 (ナトリウム) の性質の理解</li> </ul>	
	<p>3章 化学結合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>イオンとイオン結合</li> <li>分子と共有結合</li> <li>◎分子からなる物質の融点と沸点</li> <li>◎水素結合とファンデルワールス力</li> <li>金属と金属結合</li> <li>◎金属結晶の構造</li> <li>化学結合と物質の分類</li> </ul> <p>〔探究 6〕「物質の性質からの化学結合を推定する」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>陽イオン, 陰イオン, イオン式, , イオン結合など</li> <li>, イオン結晶, 組成式, イオン結晶の性質と利用など</li> <li>分子の分類, 分子式, 構造式と分子の形など</li> <li>共有結合, 配位結合, 分子の極性, 水への溶解など</li> <li>分子間力, 分子結晶の性質</li> <li>分子の質量と沸点と融点, 分子の極性と沸点と融点など</li> <li>水素結合, ファンデルワールス力, 氷の結晶構造など</li> <li>自由電子と金属結合, 金属の性質, 金属とその利用など</li> <li>結晶格子と単位格子, 最密構造, 配位数など</li> <li>化学結合と分子間力による結晶の分類と性質</li> <li>〔探究 6〕ヨウ化カリウム, 亜鉛, ろうの性質を調べ, 化学結合との関係を推定する</li> </ul>	<p>期末テスト 提出物 実験レポート 学習状況の観察</p>
(29) 時間 想定  2 学 期	<p>2編 物質の変化</p> <p>1章 物質質量と化学反応式</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>原子量・分子量・式量</li> <li>物質質量</li> <li>溶液の濃度</li> <li>化学反応式とその量的関係</li> </ul> <p>〔探究 8〕「化学反応における物質の量的関係を調べる」</p> <p>2章 酸と塩基</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>酸と塩基</li> <li>◎水のイオン積</li> </ul> <p>〔観察実験 16〕「水溶液の pH を測定しよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中和反応と塩</li> </ul> <p>〔観察実験 17〕「塩の水溶液の性質を調べよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎塩の加水分解</li> <li>中和滴定</li> </ul> <p>〔探究 10〕「食酢の濃度を調べる」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子の相対質量, 原子量, 分子量, 式量など</li> <li>アボガドロ数, 物質質量, モル質量, 気体 1mol の体積</li> <li>溶質, 溶媒, 溶液, 質量パーセント濃度, モル濃度</li> <li>化学反応式の書き方と係数の意味, イオン反応式</li> <li>〔探究 8〕炭酸カルシウムと塩酸の反応により発生した二酸化炭素の体積を測定することで, 量的関係を調べる</li> <li>酸と塩基の性質, 定義について</li> <li>水の電離, <math>\text{pH}</math> と <math>[\text{H}^+] \cdot [\text{OH}^-]</math> の関係, <math>\text{pH}</math> の求め方など</li> <li>〔観察実験 16〕により <math>\text{pH}</math> を測定する</li> <li><math>\text{pH}</math> 指示薬, 変色域, , 身のまわりの物質の <math>\text{pH}</math></li> <li>中和反応, 塩の生成, 塩の分類, 塩の水溶液の性質など</li> <li>〔観察実験 17〕を通じて塩の水溶液の性質を考察する</li> <li>塩の加水分解と水溶液の性質</li> <li>中和の条件, 中和滴定と操作, 使用する器具など</li> <li>滴定曲線の種類, 指示薬の選択など</li> <li>〔探究 10〕食酢の濃度を中和滴定で測定することで, 器具の扱いや操作の方法を習得する</li> </ul>	<p>中間テスト 提出物 実験レポート 学習状況の観察</p> <p>期末テスト 提出物、実験レポート 学習状況の観察</p>
(16) 時間 想定 3 学 期	<p>3章 酸化還元反応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>酸化と還元</li> <li>酸化剤と還元剤</li> <li>金属の酸化還元反応</li> </ul> <p>〔観察実験 19〕 「金属を溶かして絵を描こう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>酸化還元反応の応用</li> <li>◎電気分解</li> <li>◎電気分解の量的関係</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>酸化還元の定義; 酸素の授受, 水素の授受電子の授受</li> <li>酸化数の定義と決め方, 酸化剤と還元剤の定義</li> <li>電子を含むイオン反応式のつくり方など</li> <li>酸化剤が受け取った電子の物質質量=還元剤が放出した電子の物質質量</li> <li>イオン化傾向, イオン化列, イオン化列と反応性など</li> <li>〔観察実験 19〕を通じて金属のイオン化傾向の違いを理解</li> <li>正極, 負極, 起電力, いろいろな実用電池について</li> <li>鉄の製錬, 銅の製造, アルミニウムの製造</li> <li>電気分解, 陽極と陰極など</li> <li>ファラデーの法則「陰極または陽極で変化する物質の量は, 流した電気量に比例する」について</li> </ul>	<p>学年末テスト 提出物 実験レポート 学習状況の観察</p>

平成29年度シラバス（体育）

学番20 新潟県立村松高等学校  
担当 石塚 佐藤 皆川

教科（科目）	保健体育（体育）	単位数	3単位	学 年	2年
教科書	『現代保健体育』（大修館書店）	副教材等	なし		

1 学習目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な運動能力と体力の向上を図る。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動の楽しさにふれ、生涯にわたりスポーツに親しむ習慣を育てる。</li> </ul>

2 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャイムと同時に授業を開始する。</li> <li>・安全の確保を徹底するため、準備運動をしっかりと行う。</li> <li>・他者を尊重する態度を育てる。</li> </ul>
---

3 評価の観点と評価規準及び評価材料

観点	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解	
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで計画的に運動しようとしている。</li> <li>・公正、協力、責任などの社会的態度が身についているか。</li> <li>・健康や安全に留意して運動しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の能力と運動の特性に応じた課題を見つけ出している。</li> <li>・課題解決を目指して、活動の仕方を考え工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の能力と運動の特性に応じた課題解決を目指して運動を行い、技能を高めている。</li> <li>・自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の行い方を身につけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動技術の仕組みと運動の学び方について理解できている。</li> </ul>	
評価材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動観察</li> <li>・個人カード</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動観察</li> <li>・個人カード</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計測</li> <li>・行動観察</li> <li>・個人カード</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動観察</li> <li>・個人カード</li> </ul>	

4 定期考査・課題・提出物

持久走やマラソン大会については、欠席した分の補習を行う。
------------------------------

5 担当者からの一言

マナーを守り、スポーツの楽しさを味わってください。
---------------------------

6 年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい (何を学ぶか)	学習活動【評価材料】
3 4 時間 想定	体づくり運動 体ほぐし運動 体力を高める運動	①体への気づき ②体の調整 ③仲間との交流	
1 学 期	陸上競技 1 0 0 M 5 0 Mハードル 円盤投げ 1 5 0 0 M (男) 1 0 0 0 M (女)	①運動の基礎等、総合的判断 することができる ②運動適性を科学的に捉える ことができる  ① 正しいフォームを身に付け る ② 自己の記録向上の喜びや競 争の楽しさを味わうことが できる	評価の観点及び評価材料をも とに、出欠席なども含め総合 的に評価する。
4 3 時間 想定	陸上競技 持久走 マラソン大会	① 心肺機能を高める ②自己の記録向上の喜びや競 争の楽しさを味わうことが できる	
2 学 期	球技 (選択) サッカー バレーボール バドミントン	①それぞれの技術レベルに応じ て楽しむことができる ②勝敗を競う過程や結果に喜 びを感じることができる	評価の観点及び評価材料をも とに、出欠席なども含め総合 的に評価する。
	体育理論	① 運動やスポーツの効果的な 学習の仕方について理解で きるようにする	
2 3 時間 想定	球技 (選択) バスケットボール バレーボール バドミントン	① それぞれの技術レベルに応 じて楽しむことができる ② 勝敗を競う過程や結果に喜 びを感じることができる	評価の観点及び評価材料をも とに、出欠席なども含め総合 的に評価する。
3 学 期	スキー・スノーボード	① 自然の美しさや雄大さに触 れながら、自己の心身の状態 を調整する能力を高める	評価の観点及び評価材料をも とに、出欠席なども含め総合 的に評価する。

計 101 時間 (52 分授業)

平成29年度 保健体育シラバス

20新潟県立村松高等学校  
担当 皆川 石塚

科目	保健体育（保健）	単位数	1 単位	学年	2年
教科書	『現代保健体育』（大修館書店）		副教材等	『現代保健体育ノート』（大修館書店）	

1 学習目標

性の理解を深め、思春期から中年期までの健康にかかわることや保健・医療サービスの活用を学ぶ。
健康に関連する環境問題について学ぶ。
食品の安全性や働くことと健康との関係などについて学ぶ。

2 指導の重点

生涯の各段階において健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があることや、我が国の保健・医療制度や機関を活用することの必要性を理解できるようにする。
---

3 評価の観点と評価規準及び評価材料

観点	意欲・関心・態度	思考・判断	知識・理解		
評価規準	理解しようと努力している。	生涯の健康について、健康課題の解決を目指して、他の人の意見や聞いたりして、課題の解決の方法を考えている。	自らの健康を保持・増進できる医療制度の活用のための基礎的な事項を理解している。		
評価材料	授業態度 学習ノート・課題の提出	授業態度 発言 グループ学習	定期考査 学習ノート提出		

4 定期考査・課題・提出物

各学期末考査・欠点補習課題・学習ノートの提出

5 担当者からの一言

健康について学びましょう。
---------------

6 年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい（何を学ぶか）	学習活動【評価材料】
1 1 時間 想定	◇生涯を通じる健康 思春期と健康 性意識と性行動の選択 結婚生活と健康 妊娠・出産と健康 家族計画と人工妊娠中絶 加齢と健康 1 高齢者のための社会的とりくみ	性の理解を深め、思春期から中年期までの健康にかかわることや保健・医療サービスの活用を学ぶ。	期末考査 ノート提出
1 5 時間 想定	保健制度と保健サービスの活用 医療制度と医療費 医療機関と医療サービスの活用 ◇社会生活と健康 大気汚染と健康 水質汚濁と健康 2 土壌汚染と健康 健康被害の防止と環境対策 環境衛生活動のしくみと働き	健康に関連する環境問題について学ぶ。	期末考査 ノート提出
8 時間 想定	食品衛生活動のしくみと働き 食品と環境の保健と私たち 働くことと健康 労働災害・職業病と健康 健康的な職業生活	食品の安全性や働くことと健康との関係などについて学ぶ。	期末考査 ノート提出

計 34時間（52分授業）

教科（科目）	芸術（音楽Ⅱ）	単位数	2単位	学年	2年
教科書	『Tutti 音楽Ⅱ』（教育出版）		副教材等	『楽しく学べる 楽典教室』（k m p）	

1 学習目標

- ①音楽活動を通じて、音楽の持つ多彩な生命力に触れ、音楽文化への理解と愛好心を育てる。
- ②音楽の幅広い活動を通して、生涯に渡って音楽を愛好する心情を育てるとともに、感情を高め、創造的な表現の能力を伸ばし、自己のみならず他者の即ち世界文化を理解・共有できる人間の育成を目指したい。

2 指導の重点

- ・音楽についての総合的な理解を深めるため、歌唱、器楽、鑑賞、創作の各領域を一体化した内容を授業に盛り込む。また、主体的な学習態度を育てるため、適切な課題を設定して学習を進める。
- ・楽典について、2年生では基礎的な内容の徹底とともに、より発展した学習を行い、理解を深める。
- ・計画的な共同作業を設定して、仲間と協力して努力し、達成感と演奏する喜びを体験させる。
- ・世界の楽器文化理解のための楽器作成・演奏を行い、より幅広く音楽を愛好する心情を育てたい。

3 評価の観点と評価規準及び評価方法

観点	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への意欲</li> <li>・楽器の奏法に関心を持ち、意欲的に取り組もうとしたか。</li> <li>・グループや個別活動での態度。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器の種類に応じた効果的な表現を工夫したか。</li> <li>・よりよい演奏をするために、どのような工夫が必要か考えながら取り組めたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声質を合わせ他の声部を聴く意識を持って取り組んだか。</li> <li>・楽曲構成を把握し、リズム、フレーズなどを正しく表現できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DVD感想文、提出課題で指示や目的に答えていたか。</li> <li>・各グループの演奏を聴き、それを参考にして自分たちの表現活動に生かすことができたか。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻、忘れ物、指導や指示への反応、逸脱行為をしていないか。</li> <li>・課題解決への計画。</li> <li>・目標の達成度。</li> <li>・取り組み、努力する姿勢。</li> <li>・提出物の内容。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発声での反応、実行度。歌唱教材への取り組み方。</li> <li>・指示した楽器奏法や表現工夫の目標を達成できたか。</li> <li>・自己評価の内容。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題プリント。</li> <li>・各種小テスト。</li> <li>・定期考査に当たるテスト。</li> <li>・ノート、テキスト提出。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鑑賞の感想文、提出課題の内容。</li> </ul>

4 定期考査・課題・提出物

- ・定期考査は各学期とも授業中に行う。
  - ①実技：歌唱、器楽合奏を課題解決への自主計画の内容とともに五段階の基準を設けて評価する。
  - ②楽典：学習範囲の提出と確認試験を行い評価する。
- また、これらに普段の授業態度やプリント内容を加味して成績とする。授業態度は努力度として重視する。

5 担当者から一言

音楽とは本来、自発的な行為であり、自ら奏でることによって音楽の楽しさ、喜びが味わえると感じています。さまざまな音楽を学び、自ら体験することによって、多文化への理解や音楽文化の価値を見出せるようになってほしいと望んでいます。

6 年間プログラム・予定表

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
2 4 時間 想定  1  学  期	音楽と生活 ソルフェージュ (3)	発声のための姿勢、呼吸法 音程、リズム、フレーズ 校歌・応援歌の復習	・発声を考え、ピアノ伴奏に合わせて音程・リズム・フレーズが表現できているか。 ・既習内容の定着度確認。
	ギター重奏(8)	ギターの美しい音色を表現する。互いの音を良く聴いて呼吸・息を合わせる。	・基本的な奏法を習得しているか ・互いの音を良く聴いてバランスを考えた演奏ができたか。
	日本の歌曲を楽しむ(5)	発声を意識しながら言葉を大切にし、歌詞の意味を感じ取る。	・「ありがとう」、「見上げてごらん夜の星を」等を、音程やリズム、フレーズなどを意識し、歌詞の意味を考えた表現ができたか。
	映画鑑賞 (2)	映像と音楽の関係に意識を向けて、音楽関係の映画を鑑賞する。	・音楽映画の鑑賞(未定) ・課題プリント
	楽典1 (4)	1年次までの学習の確認をする。 課題プリント、小テストにより学習内容を確実に身に付けさせる。	・五線の理解。音符の長さ、休符の長さ、音名の区別、拍子、楽語の理解。 ・上記を正しく書く。小テスト。
	学習内容の確認 (2)	①歌と楽器の実技テスト ②楽典テスト	・単元の総仕上げとして、その都度確認試験を行う。
3 0 時間 想定  2  学  期	楽しく歌おう (6)	発声を意識しながら、歌詞の意味を感じ取って表現する。 互いのパートを聴き合い、声質を合わせる。	・「Top of the world」「いつも何度でも」等を、音楽を味わいながら歌う。 ・英語の発音、詞の意味を感じて意欲的に歌えたか。
	和楽器の演奏、鑑賞(14)	基礎的な奏法を学ぶ。 和楽器を通し、日本の伝統音楽に触れる。	・和楽器を演奏、鑑賞することで、日本音楽の特徴を学び、自国の文化財産に興味関心を持つ。
	楽典2 (3)	音程、音階、楽語の理解。各種記号。・小テスト	・音程、音階、楽語の理解(継続)。各種記号。小テスト。
	演奏発表会に向けてI(4)	学年末の演奏発表会開催に向けて準備に入る。 グループを結成し、到達目標、練習計画を立てて実行する。	・1年次からの総合的まとめとして、選曲から練習計画まですべて自分たちで考えて進める。
	学習内容の確認 (3)	①歌と楽器の実技テスト ②楽典テスト	・単元の総仕上げとして、その都度確認試験を行う。
1 6 時間 想定  3  学  期	演奏発表会に向けてII(13)	2学期に引き続き、演奏発表会に向けた活動を進める。	・2学期に進めてきた内容を、さらに掘り下げ、人前で演奏するにふさわしい状態になるよう取り組んでいるか。
	演奏発表会リハーサル(2)	本番に向け、リハーサルを行う。	・人前で演奏する心構えの重要性を実感できているか。
	演奏発表会の開催(1)	演奏発表会の形による実技テスト	・取り組みに最善を尽くすことができたか。

教科（科目）	芸術（美術Ⅱ）	単位数	2単位	学 年	2年（3クラス）
教科書	『美術2』（光村図書）	副教材等	課題制作のための説明プリント他		

### 1 学習目標

美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

### 2 指導の重点

- 美術全般に関心を持ち、総合的な発想力、表現力の育成を目指す。
- 主体的に美術の活動に取り組みせ、美術を愛好する心情を高める。
- 作者の制作に対する取り組み方、表現への工夫にふれ美的感性、知識、態度を養う。

### 3 評価の観点と評価規準及び評価方法

観点	美術への関心・意欲・ 態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
評価規準	美術の創造活動の喜びを味わい、美術や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために、必要な技能を身につけ、表現方法を工夫して表している。	美術や美術文化を幅広く理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 作品</li> <li>• 課題プリント</li> <li>• 取り組み姿勢</li> <li>• 持続力</li> <li>• 意欲</li> <li>• 発言</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 作品</li> <li>• 発想力</li> <li>• 構想力</li> <li>• 発言</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 作品</li> <li>• 集中力</li> <li>• 向上心</li> <li>• 適切な用具の使用や後片付け</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 課題プリント</li> <li>• 発言</li> </ul>

### 4 定期考査・課題・提出物

- 定期考査は行わない。作品制作や鑑賞を通じて、完成作品だけでなく草案やレポート、取り組み姿勢などを総合して評価する。
- 丁寧な作業を心がけ、完成した作品に対して愛着を持つこと。

### 5 担当者からの一言

- 他の人とは違う自分の良さを発見し、個性ある作品になるよう向上心をもって取り組むことを期待します。  
最後まであきらめず、丁寧な作品制作を心がけて下さい。
- 美術に限らず、映画や音楽、文学などに親しみ、自らの感受性を伸ばしてください。

6 年間プログラム

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
(24) 時間 想定  1 学 期	オリエンテーション/ 「美術Ⅱ」とは ②  デザイン/ 平面構成 (14)  鑑賞/ 作家の生き方と作品 1 ②  素描/ 静物デッサン (6)	「美術Ⅱ」の学習の意義を知り、年間の予定や評価について理解する。  色彩、形態など造形要素の働きを理解し、それらを効果的に生かして美しく構成する力をつける。  作者の心情や意図、表現の工夫などについて理解を深める。  対象を見つめ、造形の美しさを見つけ、鉛筆で素描する。	シラバス等配付 今年の目標など  台紙に色紙を貼りつける。基礎課題を経て本課題を制作する。 【作品】  VDV等の鑑賞。 感想カードへの記入。【感想カード】  画用紙、鉛筆、カッターナイフ 【作品】
(30) 時間 想定  2 学 期	立体デザイン/ ムービングフィッシュ (26)  鑑賞/ 作家の生き方と作品 2 ②  鑑賞/ 作家の生き方と作品 3 ②	機能を生かす立体デザインについて理解を深め制作を通して表現技能を高める。  作者の心情や意図、表現の工夫などについて理解を深める。  作者の心情や意図、表現の工夫などについて理解を深める。	加工後、ニスまたはアクリル絵の具で塗装 【作品】  VDV等の鑑賞。 感想カードへの記入。【感想カード】  VDV等の鑑賞。 感想カードへの記入。【感想カード】
(16) 時間 想定  3 学 期	絵画/ 自画像(14)  鑑賞/ 作家の生き方と作品 4 ②	自己を見つめ、個性があふれる表現への理解を深める。  作者の心情や意図、表現の工夫などについて理解を深める。	キャンバスボード・アクリル絵の具 【作品】  VDV等の鑑賞。 感想カードへの記入。【感想カード】

教科（科目）	芸術（書道Ⅱ）	単位数	2単位	学年	2年（3クラス）
教科書	『書Ⅱ』（教育図書）	副教材等	なし		

## 1 学習目標

書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

## 2 指導の重点

- 1, 古典の書美について直感的な把握を試み、得られた感想は何に由来するものか、用具・用材・構成・また作者や時代背景について考え、分析する。
- 2, 文字を素材とした表現活動を中心に、さまざまな題材のねらいをもちながら自己表現を展開していく。
- 3, 書道史を学びながら、日本と中国の関係を学ぶ。

## 3 評価の観点と評価規準及び評価方法

観点	書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力
評価規準	さまざまな書の美に関心をもっているか。 意欲的、主体的に表現し、その喜びを味わおうとしているか。	書表現の諸要素を感受し、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫しているか。	多様な用筆法を習得し、用具・用材の特性を生かした表現の技法を身につけているか。  創意工夫のある表現ができたか。	書の良さや美しさを深く味わっているか。
評価方法	作品制作に取り組む姿勢。 課題作品の提出。 プリントの記入、提出状況。毎時の出席状況、用具の準備状況（忘れ物、遅刻は減点、皆勤、忘れ物なしは増点）	作品制作に取り組む姿勢。 課題作品の提出。 プリントの記入、提出状況。	作品制作に取り組む姿勢。 課題作品の提出。 プリントの記入、提出状況。	作品制作に取り組む姿勢。 課題作品の提出。 プリントの記入、提出状況。

## 4 定期考査・課題・提出物

- ・ 定期考査はなし。各学期ごとの作品提出。

## 5 担当者からの一言

多くの個性豊かな古典に触れながら、少しでも多くの技法を習得し、自分らしく伸びやかな書を書こう。書の学習を通して、他の芸術にも触れ、自己の感受性を高めよう。

## 6 年間プログラム

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
(24) 時間 想定  1  学 期	実用書 (4)	祝儀袋のマナーと書き方。日本特有の習わしであるのし袋を、用途別に理解し、書き方を身につける。	学習活動への参加状況や態度 作品提出
	臥龍を書く (2)	生徒会名である「臥龍」を得意な書体で仕上げ、相互に批評し合う。	学習活動への参加状況や態度 作品提出 批評内容
	自由作品 (18)	言葉を題材とした作品作りをする。自選の言葉、文章を身近な素材を使って表現し、立体作品に仕上げる。	学習活動への参加状況や態度 作品提出
(30) 時間 想定  2  学 期	競書大会作品作り (8)	新潟県の競書大会課題を練習、出品。課題語句を古典をもとに創作し、半紙作品を仕上げる。 新潟県書道教育研究会 新潟大学競書大会 (二つの内一つを選択)	学習活動への参加状況や態度 作品提出
	漢字仮名交じり書の学習 (24)	近代詩文書の位置づけを知り、書家の作品鑑賞などを通してより効果的な紙・墨色・線質・構成を考え作品制作する。 宮沢賢治の『雨ニモ負ケズ』を自分のことばにしたものを題材とし、自己の理想像を求めながら書作する。 他者の作品鑑賞	学習活動への参加状況や態度 作品提出 鑑賞プリント提出
(16) 時間 想定  3  学 期	書きそめ (2)	新年にあたり、今年の目標を半紙に書く。	学習活動への参加状況や態度 作品提出 練習枚数
	基本用筆の復習 (2)	2年間のもちめとして、大筆、小筆を使った基本の筆使いの復習。	学習活動への参加状況や態度 作品提出
	共同作品 (12)	グループでテーマをきめ、言葉の選定と構成を考察し合いながら、特大用紙に揮毫し、作品を仕上げる。	グループ活動への参加状況や態度 プリント

教科（科目）	英語（コミュニケーション英語Ⅱ）	単位数	4 単位	学 年	2 年
教科書	All aboard! Communication English II （東京書籍）	副教材等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書準拠『All aboard! English Communication II WORKBOOK』</li> <li>・英文法教室（桐原書店）</li> <li>・英単語集『Vital 1700』（文英堂）</li> <li>・Listening Pilot Level 2（東京書籍）</li> </ul>		

## 1 学習目標

- ①外国語学習を通して言語や文化に対する理解を深め、具体的な言語の使用場面の中で、聞いたことや読んだことを理解する力を伸ばす。
- ②幅広い話題について、具体的な言語の使用場面の中で、英語で話したり書いたりする力を伸ばす。
- ③基礎的な単語や文法事項を用いて自分の考えを表現するなど積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

## 2 指導の重点

- ①既習の表現を復習し、聞いたことや読んだことを理解するための基礎的な力を養う。
- ②文法事項を用いて、自分や周囲の事柄について英語で表現させる。
- ③英語の指示を理解し、最後まで諦めずに活動に参加する態度を養う。
- ④読む・書く・聞く・話すの4技能を使う活動をバランス良く取り入れ、積極的に取り組ませる。

## 3 評価の観点と評価規準及び評価方法

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
評価規準	言語活動に関心を持ち、できる限り英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	幅広い話題について、英語で話したり書いたりして、情報や考えを適切に表現している。	英語を聞いたり読んだりして、相手が伝えたい情報や考えを整理し、その内容を的確に理解している。	英語の学習を通じて、その背景にある文化や歴史などを理解している。また、言語の運用についての知識を身につけている。
評価方法	活動への取り組みや授業中の態度、定期考査、課題への取り組みや提出状況、単語テストや音読テストなどから総合的に評価する。			

## 4 定期考査・課題・提出物

定期考査5回、課題テスト、単語テスト、ワークシート、ワークブック、週末課題等

## 5 担当者からの一言

1年生で習ったことを復習しながら、新しい表現を学んでいきます。英語に苦手意識を持っている人もいますが、授業中に理解しきれなかったことを補う学習会も開催しますので、最後まで諦めずについてきてください。

学年共通の単語テストと音読テストを実施します。今年から新たに週末課題も出します。定期テストで良い点を取る自信がなくても、普段の授業や宿題にしっかり取り組めば、自然と力はつきますので、努力しましょう。全ての課題・活動が評価の対象になります。

## 6 年間プログラム

学期	単元名	学習内容
48h 1	Lesson 1 My Friend in Hawaii	比較表現 : more, the most 人を紹介する表現
	Lesson 2 Streetcars in My City	関係代名詞 : what ほめる表現
	Lesson 3 Crossing Language Barriers	現在完了進行形 : have + been + 動詞の ing形 気づかう表現
	Lesson 4 The Spirit of the Forest	間接疑問文 注意を促す表現
	Lesson 5 Girl with a Pearl Earring	名詞を後ろから説明する分詞 印象を述べる表現
60h 2	Lesson 6 Grandchildren's Restaurant	不定詞を含む表現 目的を述べる表現
	Lesson 7 A Microcosm in the Sea	動詞の目的語になる if 節 主張する表現
	Lesson 8 Wings of Music	補足説明をする関係代名詞 : who, which 夢を語る表現
	Lesson 9 Magic of the Cotswolds	関係副詞 : where, when 手紙文の表現
32h 3	Lesson 10 Bunraku	知覚動詞 感動を表す表現
	Lesson 11 Bitter Truth about Chocolate	使役動詞 引用する表現
	Lesson 12 Hayabusa's Present from Space	分詞構文 訂正する表現

教科（科目）	家庭（家庭総合）	単位数	2単位	学 年	2年（全クラス）
教科書	『家庭総合 パートナーシップでつくる未来』（実教出版）	副教材等	『最新生活ハンドブック』（第一学習社）		

## 1 学習目標

人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などに関する知識と技術を総合的に習得し、生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
--

## 2 指導の重点

<p>①自立して生活していけるよう、必要な知識と技術の習得を目指す。</p> <p>②社会全体で支え合っていることを知るとともに、人とつながりながら共に生きる力を学ぶ。</p> <p>③将来の生活について考え、資源を大切に、自然や環境と調和して暮らしていく方法を学ぶ。</p>
--

## 3 評価の観点と評価規準及び評価方法

観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価規準	家庭や地域の生活について関心を持てた。実験・実習に積極的、意欲的に取り組んでいる。	家庭や地域の生活に目を向け、日常のあらゆる場面でどのように行動したら良いかを考えている。	生活に必要な技術を身につけ、実生活に生かそうとしている。	家庭生活の意義や役割を理解し、生活の充実向上をはかるために必要な基礎的、基本的な技術を身につけている。
評価方法	ノート 提出物（プリントなど） 取り組み姿勢 （調理実習での身支度、実習態度など）	提出物（感想文） 取り組み姿勢 発言	ノート 提出物（プリント・ワークシートなど） 調理器具の扱い方、片付け方	定期考査 ノート 提出物（感想文など） 取り組み姿勢

## 4 定期考査・課題・提出物

定期考査は、中間、期末とも100点満点とし、授業内容の理解度を確認します。
また、提出物は、授業中に取り組むプリント、ノート、その他の実習課題です。

## 5 担当者からの一言

<p>家庭総合は1年次2単位、2年次2単位とあわせて4単位の科目です。2年次では主に食生活分野と子どもの発達と保育・福祉、高齢者の生活と福祉について学びます。</p> <p>私たちは生まれてから死に至るまでの間にさまざまな人と出会い、かかわりあいながら生活しています。そんな中で一人一人が自立し、共に協力しながら生きていけるよう、家庭科の学習を通して生活に必要な知識や技術を学んでいきましょう。</p>
---

6 年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい (何を学ぶか)	学習活動【評価方法】
(23) 時間 想定  1  学 期	食生活	人と食物のかかわり、食品の栄養素とからだの成分、炭水化物とその食品など  調理実習	現代の食生活や各自の食事の問題点を考える。 栄養素の働きとそれぞれの栄養素を多く含む食品を理解する。 【発言】【ノート】【プリント】 【実習】
	中間考査		
	食生活	脂質とその食品、調理の基本  調理実習	栄養素の働きとそれぞれの栄養素を多く含む食品を理解する。 調理の基礎技術を身につける。  【発言】【ノート】【プリント】 【実習】
	期末考査		
(29) 時間 想定  2  学 期	食生活をつくる	たんぱく質とその食品、無機質とその食品、ビタミンとその食品など。その他の食品（調味料、加工食品など）、食品の選び方と安全（食中毒、食品添加物など）  調理実習	栄養素の働きとそれぞれの栄養素を多く含む食品を理解する。 食品を適切に選択、保存できるようになる。 食中毒、食品添加物などに触れ、衛生的で安全な食生活について理解する。 【発言】【ノート】【プリント】 【実習】
	中間考査		
	子どもとかかわる	生命の誕生、心身のゆたかな発達、子どもの生活など  調理実習（幼児食おやつ）	子どもを生子、育てることの重要性を認識する。 乳幼児の心身の発達の特徴を理解する。  【発言】【ノート】【プリント】
	期末考査		
(16) 時間 想定  3  学 期	高齢者とかかわる	高齢者のこころとからだ、高齢者とのふれあい、高齢社会と福祉など	加齢に伴う心身の変化と特徴を理解する。 高齢者の生活の現状と課題について考える（介護など）。【介助実習】
	人のつながりと福祉	私たちを支える社会福祉、誰もが住みやすい社会など  福祉マインドについて考える。	暮らしを支える社会福祉について考える（社会保障制度など）。 【発言】【ノート】【プリント】
	学年末考査		

計 68時間 (52分授業)

教科（科目）	情報（社会と情報）	単位数	2単位	学年	2年
教科書	『最新社会と情報』（実教出版）		副教材等	『30時間でマスターoffice2007』（実教出版）	

## 1 学習目標

<p>情報社会といわれている現代で、情報をしっかりと理解し、実践できる能力を育成することを目標としている。また、機器操作技術の習得はもちろんであるが、それだけで終わらずに情報の本質を知ることにより公序良俗に反することなく情報の利用法を身につける。</p>
---

## 2 指導の重点

<p>①社会に出て必要になるであろう最低限度の機器操作の習得、ソフトウェアの使用方法を学ぶ。 ②様々な事例学習、実習を通して、情報社会を生きていく上で欠かせない情報モラルについて学ぶ。</p>
--

## 3 評価の観点と評価規準及び評価方法

観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価規準	情報や情報社会に関心を持ち、身のまわりの問題を解決するために、自ら進んで情報及び情報技術を活用し、社会の情報化の進展に主体的に対応しようとしている。	情報や情報社会における身のまわりの問題を解決するために、情報に関する科学的な見方や考え方を活かすとともに情報モラルを踏まえて、思考を深め、適切に判断し表現できる。	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な技能を身に付け、目的に応じて情報及び情報技術を適切に扱っている。	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識を身に付け、社会における情報及び情報技術の意義や役割を理解している。
評価方法	発言（質問） 取り組む姿勢 課題プリント 実習課題 自己評価	発言（質問） 取り組む姿勢 課題プリント 自己評価および生徒間評価 プレゼンテーション	発言（質問） 取り組む姿勢 課題プリント	定期考査 授業中の課題

## 4 定期考査・課題・提出物

<p>1・2学期は中間・期末考査とともに授業でやった内容で実施します。評価については、考査、課題提出状況、学習への取り組み等を総合して判断します。3学期については、考査は行わず、プレゼンテーションの取り組み、作品の内容等で評価します。</p>
---

## 5 担当者からの一言

<p>社会と情報は、情報化社会の中で生活していくために必要な科目です。課題等に積極的に取り組み、自ら考える姿勢を持ち続けるようにしてください。また、コンピュータ機器の操作に精通している人は、わからない人への手助けをしてほしいと思います。</p>
--

6 年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
1 学 期 想 定 時 数 (23)	オリエンテーション 基本的な知識と技術を身につけよう 1 コンピュータを活用するには 2 データを保存するときに 3 ソフトウェアを使ってみよう 4 作成したファイルを確認しよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の意義、内容、評価方法を説明。</li> <li>・情報はコンピュータだけではなく、様々な機器や方法を用いて伝えられていることを学習する。</li> <li>・コンピュータとはパソコンをさすだけでなく、用途により多くの種類のコンピュータが存在し、利用されていることを学習する。</li> <li>・ワードを利用した学習を行う。</li> </ul>	シラバス配布 【課題プリント】 【取り組み姿勢】 【実習課題】
2 学 期 想 定 時 数 (29)	情報社会とわたしたち 1 情報社会 2 情報社会の個人 情報機器とデジタル表現 1 デジタルと情報機器	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報化の進展により、社会が便利になったが、一方で私たちの生活を脅かす事例もあることを学習する。</li> <li>・情報のデジタル化について学ぶ。</li> </ul>	【課題プリント】 【取り組み姿勢】 【実習課題】
	表現と伝達 2 表計算ソフトの利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エクセルを用いて表計算の基本を学習する。</li> </ul>	【課題プリント】 【取り組み姿勢】 【実習課題】
	コミュニケーションとネットワーク 1 コミュニケーション 2 ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報機器を使用しコミュニケーションを行う際の注意点について学習する</li> <li>・情報を利用するには、情報を正確に効率よく探す方法を考える。そのために身のまわりにどのような情報源があるかを考える。</li> <li>・インターネットの概要を学習する。</li> <li>・インターネット検索の疑似体験を通して、検索方法を学習する。</li> <li>・情報の信頼性と妥当性について検討を行う。</li> </ul>	【課題プリント】 【取り組み姿勢】 【実習課題】
3 学 期 想 定 時 数 (16)	表現と伝達 1 表現の工夫 3 プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マルチメディア作品とはどういうものかを理解する。</li> <li>・ポスターの目的を理解し、表現の工夫の仕方を学ぶ。</li> <li>・プレゼンテーション用スライドの作成方法を学ぶ。</li> <li>・今まで行った授業を振り返って、プレゼンテーションソフトを使って、まとめの作品を作り、発表する。</li> </ul>	【課題プリント】 【取り組み姿勢】 【実習課題】 【作品】 【発表の様子】
	法規とセキュリティ 1 情報の管理・保護に関する法律 2 情報セキュリティ 情報化社会と問題解決 1 情報システムと人間 2 問題解決	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報に関するさまざまな法律について学習する。</li> <li>・情報セキュリティ技術について学習する。</li> <li>・身近な情報システムについて学ぶ。</li> <li>・情報社会の課題について学習する。</li> </ul>	【課題プリント】 【取り組み姿勢】

計 68 時間 (52 分授業)